

## ニッセイ インターネットアンケート

### ～7月:「夏のボーナス」について～

日本生命保険相互会社(社長:筒井義信)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「夏のボーナス」に関するアンケート調査を実施いたしました。

#### 《調査概要》

- 調査期間 : 平成28年6月1日(水)～6月16日(木)
- 実施方法 : インターネット(PC・携帯電話モバイルサイト)による回答
- 調査対象 : 「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数 : 7,972名(男性:4,198名、女性:3,774名)

#### ＜年代別回答者数＞

(名, %)

年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
男性	279	694	1,180	1,156	628	261	4,198
女性	325	651	1,038	917	583	260	3,774
合計	604	1,345	2,218	2,073	1,211	521	7,972
占率	7.6	16.9	27.8	26.0	15.2	6.5	100.0

#### ＜職業別回答者数＞

(名, %)

	民間企業・団体			自営業 自由業	公務員	学生	パート アルバイト	無職※	その他	合計
	正社員 正職員	嘱託 派遣社員 契約社員	経営者 役員							
合計	3,427	434	195	593	506	31	848	1,799	139	7,972
占率	43.0	5.4	2.4	7.4	6.3	0.4	10.6	22.6	1.7	100.0

※専業主婦(主夫)含む

#### 《調査結果のポイント》

##### ポイント①

質問1・2

- 夏のボーナスの支給額は平均57.5万円、昨年比3.2%減少
- 男女別の平均支給額は、男性は1.8%減少、女性は6.2%増加
- 昨年よりボーナスが「増えた」方は、全体で約1割だが、公務員は約2割

##### ポイント②

質問3

- ボーナスの使い道は、昨年と変わらず約3割の方が「貯蓄・資産形成」と回答  
「海外旅行」「国内旅行(宿泊あり)」が合わせて3.6%増加

##### ポイント③

質問4・5

- 貯蓄・資産形成の手段は、3分の2の方が「預貯金(円建て)」と回答
- ボーナス支給額が高くなるほど、資産形成に株式や投資信託等を組み入れる方が増える
- 貯蓄・資産形成のために、預貯金以外の手段を増やしたり、新たに始めた方は約1割

## 質問1 ボーナスの支給額はいくらでしたか？

(回答者数：3,365名)

- 夏のボーナス平均支給額は、57.5万円で、昨年に比べて減少
- 男女別では、男性の平均支給額は1.8%減少、女性については、6.2%増加

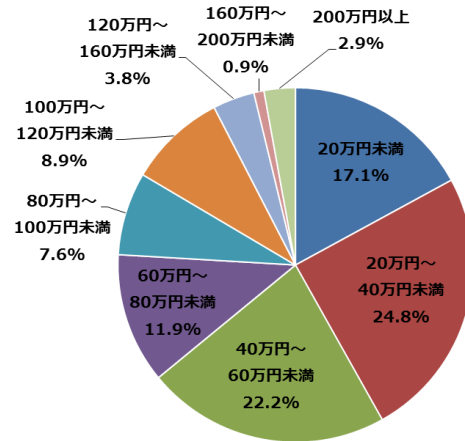
< ボーナス平均支給額 >

平均 57.5万円

< 全体 >

< 男女別 >

	(万円)		
	全体	男性	女性
今年	57.5	67.4	37.2
昨年	59.4	68.7	35.0
増減	▲3.2%	▲1.8%	6.2%



## 質問2 ボーナスは増えましたか？減りましたか？

(回答者数：6,023名)

- ボーナスが「増えた」と回答した方の割合は、昨年は21.7%だったが、今年は10.5%
- また、4分の3の方が、昨年と比べて「変わらない」と回答
- 職業別では、「民間企業・団体の正社員・正職員」「公務員」の「増えた」と回答した方の割合が全平均を上回る結果となった

< 昨年との比較 >

	今年	昨年
増えた	10.5%	21.7%
減った	13.5%	16.4%
変わらない	76.0%	61.9%

< 職業別 >

	増えた	減った	変わらない
民間企業・団体の正社員・正職員	14.7%	16.8%	68.6%
民間企業・団体の嘱託・派遣社員・契約社員	6.1%	13.5%	80.4%
民間企業・団体の経営者・役員	6.0%	10.7%	83.3%
自営業・自由業(家族従事者含む)	0.8%	4.8%	94.5%
公務員	20.0%	11.1%	69.0%
全平均	10.5%	13.5%	76.0%

< ニッセイ基礎研究所 井上智紀准主任研究員のコメント >

昨年に比べ伸び率が鈍化傾向となっていた今春の賃金動向に加え、円高や熊本地震の影響への懸念から、全体でのボーナス支給額は減少する結果となりました。ただし、民間企業・団体の正社員・正職員や公務員では、昨夏よりも増えたとする回答も1～2割となっていることは、業績改善を背景として従業員に利益を還元する動きには業種や地域により、かなりの温度差があることを示しているといえるでしょう。

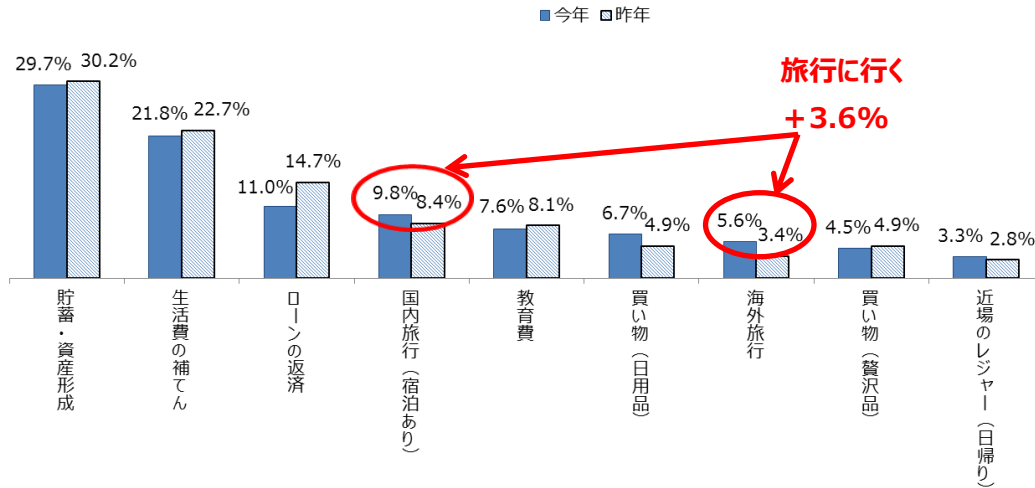


質問3 ボーナスを主に何に使いますか？

(回答者数：5,811名)

- 「貯蓄・資産形成」と回答した方が約3割となった
- 「国内旅行(宿泊あり)」「海外旅行」と回答した方を合わせると3.6ポイント増加

<ボーナスの使い道>



<男女別>

	男性	女性
貯蓄・資産形成	30.3%	28.7%
生活費の補てん	22.2%	21.3%
ローンの返済	13.9%	6.6%
国内旅行(宿泊あり)	9.0%	11.1%
教育費	7.8%	7.2%
買い物(日用品)	5.4%	8.7%
海外旅行	4.4%	7.3%
買い物(贅沢品)	3.7%	5.8%
近場のレジャー(日帰り)	3.4%	3.2%

女性の方が  
消費に積極的

質問4 「貯蓄・資産形成」を選択した方  
貯蓄・資産形成の主な手段は何ですか？

(回答者数：3,170名)

○「預貯金(円建て)」77.0%、「貯蓄型の生命保険」6.5%と続く  
○ボーナス支給額別では、支給額が上がるほど「株式」「投資信託」「外貨預金」といった投資性商品で資産形成する方の割合が高くなる結果となった

<ボーナス支給額別 貯蓄・資産形成の手段>

	全体	50万円未満	50万円以上 100万円未満	100万円以上
預貯金(円建て)	77.0%	81.3%	75.7%	67.8%
貯蓄型の生命保険	6.5%	6.1%	6.2%	5.5%
株式	6.4%	3.7%	7.7%	11.5%
投資信託	5.0%	3.5%	6.5%	8.2%
金	2.1%	3.0%	0.9%	1.6%
外貨預金	1.1%	0.7%	0.9%	2.7%
不動産	0.5%	0.2%	0.9%	0.5%
その他	1.4%	1.5%	1.2%	2.2%

質問5 「貯蓄・資産形成」を選択した方  
昨年と比べて、貯蓄・資産形成の手段を変更しましたか？

(回答者数：2,805名)

○約67%の方が、貯蓄・資産形成の手段を「変更していない」と回答  
○約1割の方が、預貯金以外の手段を増やした(新たに始めた)と回答

	全体
変更していない	66.9%
預貯金(円建て)の割合を増やした(新たに始めた)	16.5%
株式等、投資商品の割合を増やした(新たに始めた)	4.5%
貯蓄型の生命保険の割合を増やした(新たに始めた)	3.8%
外貨建て商品の割合を増やした(新たに始めた)	1.4%
その他	7.0%

9.7%

<ニッセイ基礎研究所 井上智紀准主任研究員のコメント>

ボーナスの使い道では、昨年と比べ「ローンの返済」が減少し、国内・海外の旅行および買い物(日用品)が増加する結果となりました。男女別では女性のほうが旅行や買い物と答える割合が高く、消費を通じた生活の充実に前向きな姿勢を示しているといえそうです。

一方、最も回答が多くなっていた「貯蓄・資産形成」では、支給額が多い層ほど投資性商品を利用する傾向にあり、1割の方は預貯金以外の手段を増やしています。当面、預金金利の上昇が見込めない中で、少しでも効率よく資産を増やすために、積極的にリスクをとる動きも広がりつつあるといえるのではないのでしょうか。

以上